

令和4年度上市町総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事録

- 日時** 令和4年9月29日（木）午後2時から午後3時30分まで
- 場所** 上市町文化研修センター 3階大会議室
- 出席者** 伊井委員、伊東委員、井上委員、碓井委員、風間委員、小柴委員、島田委員、瀬川委員、田中委員、野越委員、平井潤委員、平井敏委員、堀田委員、前原委員、三輪委員、山崎委員、吉田委員
- 欠席者** 佐野委員、日野委員、若林委員
- 事務局** 小竹副町長、牧田教育長、小池総務課長、碓井企画課長、廣田財務課長、轡田町民課長、松波福祉課長、酒井産業課長、玉井建設課長、黒田会計管理者、松本議会事務局長、神谷上市消防署長、黒田かみいち総合病院事務局長、平井教育委員会事務局長
- 【庶務】** 企画課企画班：川口課長代理、青木課長代理、盛一係長、杉本主事
- 傍聴者** 3名（報道関係者）
- 次第**
- 1 開会
 - 2 あいさつ（上市町副町長 小竹 敏弘）
 - 3 会長及び副会長の選任
 - 4 審議
 - (1) 第8次総合計画及び第2期総合戦略の進捗状況について
 - (2) 令和2年国勢調査に基づく将来推計人口について
 - (3) 総合戦略への具体的な事業の追加について
 - (4) 審議委員から町への意見・要望等
 - 5 その他
 - 6 閉会

当日配付資料

- ・出席者名簿
- ・座席表
- ・ご意見等連絡用紙

事前配付資料

- ・資料1 第8次上市町総合計画及び第2期上市町まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況報告書
- ・資料2 上市町人口ビジョン（令和4年9月改訂版）
- ・資料3-1 第8次総合計画の目標人口について
- ・資料3-2 第8次総合計画（修正箇所抜粋）7ページ
- ・資料4-1 第2期上市町まち・ひと・しごと創生総合戦略への具体的な事業の追加について
- ・資料4-2 奨学金の返済を支援します！
- ・資料4-3 ゼロカーボンシティ富山の実現
- ・資料4-4 「おおかみこどもの森づくり」プロジェクトの概要
- ・資料4-5 第2期総合戦略（修正箇所抜粋）27～30ページ

議事等

1 開会、あいさつ、会長及び副会長の選任

審議委員 17 名が出席した。司会者の企画課長が開会を宣言し、本年度の審議会委員の選定方法と委嘱状交付に関する説明を行った。なお、委員の紹介は所属団体の役員交代によって昨年度から変更のあった次の 5 名に省略した。

- ・ 上市町区長協議会長 伊井 謙治委員 (第 2 号委員)
- ・ 上市医師会長 日野 孝之委員 (第 4 号委員)
- ・ 富山県立上市高等学校副校長 前原 五輪雄委員 (第 4 号委員)
- ・ 上市町社会福祉協議会長 吉田 清人委員 (第 4 号委員)
- ・ 三日市保育園副園長 風間 恭子委員 (第 5 号委員)

司会者は、本審議会を欠席した 3 名を報告した。

- ・ 上市町働く婦人の家友の会会長 佐野 好子 (第 2 号委員)
- ・ 上市町体育協会理事 若林 義則 (第 2 号委員)
- ・ 上市医師会長 日野 孝之 (第 4 号委員)

副町長があいさつを述べ、コロナ禍の中で第 8 次総合計画及び第 2 期総合戦略を進めている現状や本審議会での審議事項の概要について説明し、審議委員へ忌憚りの無い意見を求めた。

司会者が、会長の選任について意見を募ったが特になかったため、昨年度に引き続き上市町公民館連絡協議会長の山崎委員を会長とする案を事務局が提案し、出席委員に了解を求め、了承された。

山崎会長は、上市町総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略審議会の設置及び運営に関する条例（平成 2 年 3 月 26 日条例第 2 号）第 5 条第 4 項に基づき、副会長に上市町区長協議会長の伊井委員を指名し、同条例第 6 条第 1 項に基づき、議長となって議事を進行した。

2 審議事項(1) 第 8 次総合計画及び第 2 期総合戦略の進捗状況について

議長は、審議事項(1)について事務局に説明を求めた。

事務局は、配付資料 1 に基づき、第 8 次総合計画及び第 2 期総合戦略の進捗状況を説明した。

議長が、以上の説明についての質疑を審議委員に確認したところ、次のとおり質疑応答があった。

<質疑応答>

委員 各審議委員から意見が出やすくなるように、まず私から簡単な質問をさせてもらう。資料 1 の 3 ページ公民館講座受講者数（政策「つながる 2」教育・文化、項目「2-2 生涯学習の振興」）で前期計画の目標が累計値の設定となっているので、前期進捗率は単純に 5 年で割れば 20% 平均となる。令和 3 年度は進捗率が 13.3% なのでコロナの関係で平均より少なくなっているのだと思うが、令和 3 年度達成率の 103.1% という率は何を表しているのか？

事務局 前期基本計画の 5 年間について、年度ごとの目標値を各指標の所管課において設定しており、その令和 3 年度目標値に対して令和 3 年度実績の達成割合を表したのが令和 3 年

度達成率である。この表には、年度の実績値と達成率だけを掲載している。

委員 資料1の7ページ、政策「ささえあう2」生活安全の項目「2-2 防犯・再犯防止・交通安全対策の強化」で防犯灯のLEDの進捗率が107.7%となっている。防犯灯をLEDに変えることは防犯上やエネルギー消費面ではとてもいいことだと思うが、子供たちの通学路を特に明るくして欲しい。田んぼを住宅地にした周辺の防犯灯や危ない側溝、駅前等の車の交通が多い場所など、通学路の危険個所をチェックする体制を見直して欲しい。そのような要望を何人かの若いお母さんから聞いた。最近、子どもの事故や事件の報道をよく聞くので、通学時の事故防止、防犯を強化し、未来を支える子どもたちの安全を確保してもらいたい。

事務局 防犯灯の設置については、町内会長からの申請に基づいて、機器の費用の半分程度の8,000円を補助している。暗い場所があれば、その地域の町内会長へ相談してもらおうのも一つの方法だと思う。

事務局長 通学路全般の危険防止について、町では、年に1回各校区から通学路の中で危ないところを出していただいて、警察署や道路管理者と一緒に通学路の安全点検を行っている。その中で、暗いといった意見や通学ルートの見直しが必要ではないか、横断歩道が必要ではないかなどの議論をしており、簡単には進まないが、一步ずつ取組を進めている。

委員 防犯灯のLED化について、蛍光灯とLEDでは消費エネルギーの面で町が支払う費用は違っていると思うが、単価はどのくらい違うのか？

事務局 蛍光灯とLEDの費用は違うが、支払っている金額や単価の正確な数字を把握していないので、本審議会後に関係資料を調べたうえで回答する。

委員 LED化すると町から助成が8,000円出るが、防犯灯の本体が高額なため、助成額を増やしてもらいたい。

事務局 防犯灯が蛍光灯の時の1/2の補助率を参考にLEDの補助金を設定しているが、LED機器は蛍光灯のものよりも高額なため、補助金制度を見直していく必要があると思っている。

委員 私の住む郷柿沢地区は、すべてLED化したので今後当分の間は助成金がいらないが、先ほどあったように通学路でLED化を申請したいけれども電柱が無いところがある。そのような場所には、北陸送配電で電柱を建てて電線を引いてくれるのか？申請の方法も分からなくて、電気工事の事業者申請を含めて工事を依頼したことがある。長い距離で電線を引き込みたいという要望が地域からあった場合には、町の町民課が申請手続きをして欲しい。

事務局 防犯灯を付けたいから電柱を建てさせてくれというのは北陸電力ではできないと聞いている。支柱を建てて防犯灯を付けて、そこに電気を引っ張って欲しいということであれば、500mまでの距離の範囲で電気を引くことができる。

委員 過去には電柱の無い場所に防犯灯を付けるのに地域で電柱を建てていたという事例もあると思うが、今の地域の財政は苦しい。先ほど、副町長が子どもたちの通学路の安全点検について説明されたが、それは小学生の通学路が中心だと思うので、中学生や高校生の通学路も点検して、ここはどうしても防犯灯が必要だという場所には町が付けて欲しい。

議長 私も区長をしていて防犯灯の補助金を申請するが、LEDに替えるときは大体20,000円近くかかり、補助金が8,000円出る。一般（蛍光灯）の防犯灯では蛍光灯が切れて交換すると2,500円くらい費用がかかると聞いている。LED機器は高いけれどもLED自体は長

持ちするので、私の地域では順次LED化を進めている。

委員 最近の商品の値上がりが続いている。7,000円分の商品券を5,000円で販売する商工会のプレミアム商品券を町に支援していただいたお陰で、飲食店等の利用者が増えており、私のお店でも商品券を使っていたら、こういった商品券は大概10,000円買ったら2,000円分が付いてくる程度のものだが、10,000円で4,000円も付いてくるのはすごいと思う。また、第2弾が配られるので、(商品券の使用期間である)12月まで地域が潤うと喜んでいる。この商品券を買った若い人からとても助かっていると聞いている。町の支援に感謝申し上げたい。

3 審議事項(2) 令和2年国勢調査に基づく将来推計人口について

議長は、審議事項(2)について事務局に説明を求めた。

事務局は、配付資料2、3-1及び3-2により、令和2年(2020年)国勢調査人口を基礎数値に置き換えた上市町人口ビジョン(令和4年9月改訂)と、富山県が毎月公表する推計人口の推移を説明し、第8次総合計画の目標人口の見直しに関する町の方針を示した。

議長が、以上の説明についての質疑を審議委員に確認したところ、次のとおり意見があった。

<審議委員からの意見>

委員 人口を増やすにはどうすればいいのか、なかなか難しい問題。商工会青年部では、10月30日に子ども向けイベントの開催を予定している。ここ2、3年はコロナの影響で子どもたちが身近なところで遊べるイベントや、街中で子どもたちだけで遊べる場がなくなっている。子育て世代である我々が何かイベントをできないかと思って企画しているところである。こういったイベントの開催が人口増加に直結しているかどうかは分からないが、子どもの時代を充実させるために、子どもの時期にしか体験できないことをさせてあげる機会を、我々親世代がたくさん創ってあげることで、子どもが大きくなった時に上市町に住みたいと思ってくれたり、町外の人たちが、こんなに楽しいことをたくさんしている町で自分も子育てしたいと思ってくれたりするような活動を続けていきたいと思っている。

委員 資料2の19ページの総合戦略の方向性には、私たち子育て世代に対する支援として力強い言葉が書いてある。「地域で子育てを担う」ということで、とても心強いと思った。県の男女共同参画は働き方改革や女性改革の方で取り組んでいて、上市町では生涯学習の方で協力して取り組んでいるが、とりわけ若い世代、女性の県外進出が非常に増えていて大きな課題となっている。それだけに限らず人口減少をどのようにカバーしていくかが上市町だけではなく日本全体の課題なので、この資料にも書いてあるとおり関係人口を増やすとか、ここには書いて無いが新しい技術の例えばAIとかIoT、ICTを効果的に活用していくとか、都市部などいろんな所との繋がり方を工夫して上市町の良さを発信し、県外に出た人にまた戻ってきてもらいたい。子どもの頃の思い出、上市町はいいところだという満足度をしっかり高めて一旦出て行ってもUターンして戻ってきてくれるような、感情に訴えるようなものであったり、そもそもの「出会って、産んで、育てる」といった子育て環境が充実していることが望ましいと思う。今いる町民の満足度を高めていくことが大事だと思っている。県では、パートナーシップ制度の導入に向けた検討を進めている。LGBTなどの同性

婚のことだと思っていたが、事実婚も含まれているということで旧態依然の「家」制度を固持するために長男長女のカップルが事実婚として取り入れているケースもあると聞いた。実際に運用していくには課題がたくさんあると思うが、少子化でも「家」制度や法律的な相続をしっかりとやっていく方法として、上市町でチャレンジしていくのも1つのやり方だと思う。上市町は田園工業地帯だということが大きな強みだと思う。農業というのは「食」。「食」は人間にとって絶対欠かせないものなので、これをしっかりと作って上手に売っていくという仕組みをつくれれば、私はここで稼いで暮らしていけるという自信になり、自己有用感にも繋がっていくと思う。

4 審議事項(3) 総合戦略への具体的な事業の追加について

議長は、審議事項(3)について事務局に説明を求めた。

事務局は、配付資料4-1、4-2、4-3、4-4及び4-5により、総合戦略の重点施策へ新たに追加する3つの具体的な事業を説明した。

議長が、以上の説明についての質疑を審議委員に確認したところ、次のとおり質疑応答があった。

<質疑応答>

委員 資料4-5、総合計画29ページの重点施策の「防災・減災」にはソフト面が非常に多い。

町のハザードマップで具体的な浸水箇所が分かっているのに、ハード面での施策は考えていないのか？ 県の管轄する河川もあるので町だけで対策をするのは難しいと思うが、ソフト面だけ充実しても減災はむずかしいと思うので、重点施策にハード面の対策も入れて欲しい。

事務局 近年、異常気象による豪雨等で上市町でも8月に避難所を開設する案件があった。上市町では各地区の防災組織の設置率が100%であり、その自主防災組織の活動費に対する助成のほか、ハード面として自主防災組織ごとの資機材への助成制度がある。

委員 その資機材の助成は、昨年から各自主防災組織に30万円を5年間助成するものだと思うが、そういう話ではなく、実際に川が氾濫して水没するとか、街中で融雪の水を流したら荒田地区の方で溢れるといった問題について、ハード面の対策をどのように考えているのかを聴きたいと申し上げたのであって、各自主防災組織への助成のことを聴きたいのではない。

事務局長 特に最近雨の関係での防災・減災対策が心配かと思う。上市町を走る川は、大体の川を県が管理しており、町から県に依頼して現在、川底に溜まった砂を浚渫し、できるだけ水が流れるようにする取組を少しずつ進めてもらっている。また、簡単なことではないが、住宅街周辺の水路で水が溢れるということがあれば、水路の水量を考えて必要なところから徐々に工事をしていく検討も必要だと思っている。ハード面の対策としてはこのような状況である。

委員 簡単に言えば、上市川に水量があって、しっかり流れないと上市川に合流して流れる川の水が流れていかないということ。私たちが県土木へ、川の流れについてもっと真剣に考えて欲しいとお願いしている。私も良く分からないが、川に合流させるときに合流する川と本流との接点で吸い込む流し方があるそうなので、その改善を強く要望して欲しい。以前は上市川で砂を取っていた時代もあったが、今は砂が取れなくなってダムの堆積物を揚げていくというのが現状である。ダムの貯水量を上げようという考えのようだが、それと併せて、中

小の川の水が溢れるということの対策を進めれば減災に繋がると思う。防災では、各自主防災組織へしっかりと支援していけばいい。上市町の自主防災組織の設置については達成率が100%とのことだが、見た目だけの達成率だと思う。私の地元の自主防災会の責任者に「何かあったときにこの人をどうやって助けるんだ」というところまでやらないといけないと言っている。だが、「この人は本当に手助けが必要な人なのか」という情報が無くて困っている。個人情報公開できないので、なかなか難しいが何とか地域にそういった情報を下ろしてもらって、自主防災会というものをもっと活性化していくことが自助・共助に繋がっていくと思う。

事務局長 要支援者のリストについては、先日の町議会でも議題になり、上市町はその取組が遅れていて、もっと進めるようにと議員からご指摘を受けた。今後は、障害者が福祉課に来られた際など、いろんな機会を捉えて、支援が必要な方と必要ない方を一生懸命探っていくこととしている。今まで以上に気合を入れて要支援者のリストを作っていくと議会でも答弁したので、少しずつでも要支援者をしっかり把握して、地域にも可能な範囲で情報をお伝えしていけるよう頑張っていきたい。

委員 地域で何かあれば区長の責任になるので、よろしくお願ひしたい。

委員 大変難しい問題だと思うが、民生委員としては地区ごとに要支援者の取りまとめを行っていて、助けが必要だと意思表示をした方の書類を社会福祉協議会へ提出している。ただ、災害が起きた場合は、まず「我が身を守ろう」から始まる。我が身を犠牲にしてまで他人は助けられないので、まずは我が身を守って、そこから始めて支援を申し出ている方たちの状況を把握するというところで取組んでいる。何かあったら区長の責任とか、そこは民生委員の責任だとか言われると責任が重すぎて区長や委員のなり手が居なくなってしまうと私は思っている。民生委員の皆さんには我が身から守るように伝えている。そして、他人を助けられる時は、民生委員自らはもちろんのこと町の皆さんも協力して助けていかなければならないと私は思っている。

委員 もちろん我が身は大事だと思う。私が地元で言っているのは「隣の方はどうしたかな」と気遣いをしてくれる人をつくっていこうというもの。そして、部落が広すぎると本当に援助が必要な方がどれくらい居るのかという把握がなかなかできず、社会福祉協議会に助けて欲しいと登録した人しか把握できていないと聞いている。

委員 助けて欲しいという本人の意思を確認した上で、町だけではなく警察署にも情報を提供している。そして、隣近所に文書を配って、ボランティアではあるが隣同士で面倒をみていこうというシステムになっている。

委員 古い部落だと親戚が隣に住んでいたりするのでそのシステムでも分かるが、新興住宅街で40年、50年経った団地だとそのシステムが上手くいかないと思うので、ある程度の情報公開はして欲しいと先ほどから発言している。

委員 せっかくのご意見なので、民生委員の方でもこれからより一層議論を深めていきたいと思う。

5 審議事項(4) 審議委員から町への意見・要望等について

議長は、審議事項(4)として審議委員へ町への意見・要望等の発言を求めたところ、次のとお

り意見があった。

<審議委員からの意見>

委員 町には、普段から空き家対策や他の市町村には無い手厚い補助政策など、尽力していただいていると思う。最近も町外から引っ越してきた方のことをテレビで見たが、本当に力を入れていると感じた。これまでも一番懸念される問題が人口減少だと、私は言い続けてきた。子どもたちに上市町に住み続けて欲しいと思っても令和12年には人口が17,000人台になってしまう。65歳以上が2人に1人。今は、上市町には人口の割にスーパーがたくさんあるが、維持できるのか。企業が撤退していったときに、小中学校が統廃合するかもしれない、そんな町に住み続けてもらえるのか。各市町村で人口減少がかなり大きな課題となっている。東京一極集中で人口が増え、地方では減っている。そのような状況でも富山県内で人口が増加しているところもある。それは、住宅地の造成を行っている地区であり、富山市が中心となっている。人口を増やす方法は、結婚をする人を増やすことと、出産をしてもらうことの2つしかない。コロナ禍で一番の問題は3年間外出できていないこと。特に女性は高齢出産になってしまうので1年でも大事。もう1つ問題なのは働き方改革。夕方5時に仕事が終わって、真っすぐ家に帰って何をしているのかということ、ゲームをしたりして外に出ない。私の娘も病院関係の仕事をしているので、病院から外へ出ると言われていて3年間外に出ていなくて、人との交流がほとんど無くなった。各市町村でお見合いイベントなどを色々と企画していて、PTA活動もそうだが動いてくれる人は動くが、動いてくれない人をどうやって動かすかを考えていかなければならない。この状況で今何をすべきかを、このまち・ひと・しごと創生総合戦略審議会で議論しなければならない。「戦略」と名前に付いた会議なのに、あまり戦略について触れられていないのは何故なのかと思う。もっと、どうしていくべきかという戦略的なものを持って話し合う場が必要だと思う。計画の振り返りをしたときに、議会でもそうだが質問して答えて終わりになっている。どうしていくのかという話をしなければ、民間会社だったら潰れてしまう。今回の会議でも「計画の進捗はこうでした」だけではなく、目標を未達だったものは、どのようにして何をしていかなければならないのか、何が足りなかったかを話し合うのが本来の審議会の姿だと思うのだが、その話がないのはどうかと思う。建築業界はどうかというと、コロナ禍ということもあるが、物価高で材木の値段が高騰している。3年前に家を建てた人が今同じように家を建てると坪10万円くらい上がっているので、総額で300~500万円くらい上がってしまう。でも、所得は上がっていない。造成費用、コンクリート代も価格が上がっているとすれば、富山市で若い方が家を建てようとする4,500万円前後のローンになってしまう。銀行では今まで35年ローンが主流だったが、現在は平均40年ローンとなっている。上市町は土地が安いということも、もっと知ってもらう必要がある。合計特殊出生率を現在の0.99から令和7年に1.55へどうやって増やすのか、どういった戦略を持っているのかを知りたい。企業誘致をどうやって7件増やすのかが戦略に見えてこない。はっきりと言えないことや言いたくないことがあるかもしれないが、戦略に民間も引き込んでいかなければいけない。上市町の土地は、富山市まで30分で行けるベッドタウン的な要素で考えれば、間に舟橋村を挟むものの、悪くない立地だと思う。それなのに上市町のイメージは良くない。私も周りの人から「冬に雪が多いんですよね」とか聞かれて、(山間部にある)種のイメージが定着していると感じる。「おおかみ

こどもの雨と雪」に関するイベントなど、いろんなことをしているが、もっと民間と一緒にやって何かできないか話し合う本気の会議があればいいと思う。

委員 本会議の全体をとおして、また、県の成長戦略の関係を含めてご意見を申し上げる。上市町では、昨年度に新しい総合計画と総合戦略に改め、今年度も実行する中で、本日このように実績を報告された。県でも今年の2月に成長戦略を策定し、まさに今年が実行の年だということで、同じように計画を作って進めているところである。やはり、計画と言うのは作って終わりではなく、少しでも進めていくということが非常に大事で、我々がよく委員に言われるのが「スモールスタートでいいのだ」ということ。計画は計画として大事だけれど、着手はできるところから実行する。目に見えるところから少しずつでも進めていく。そして、県民の皆さんや事業者の皆さんと、ここであれば町民の皆さんと一緒にやっていくのが大事だと言われている。そういった中で、今回報告のあった進捗状況では、進んでいる所と進んでいないところはあるが、すでに計画を達成しているところも多々あって凄いなと思った。もう一点、我々が計画を作って実行していく中でよく委員から言われるのが、今これだけ状況が変わっていく中で、計画は計画として大事だけれども「アジャイル型」で進めていくことが大事だということ。要は、柔軟に状況に応じて変えていくことが大事だということで、我々も毎年「しあわせる。富山」というイベントを開催し、県民の皆さんに発信しながら、関心を持った皆さんと一緒に計画を進めている。今月の末にも開催する予定で、ご意見を聞きながら予算にも反映していくところである。そういった面でも、昨年立てられた計画の中で、資料4-1にあったように3つの主要事業を追加するというところで、柔軟に計画を見直して効果的な事業を進めているところが非常に素晴らしいと思った。もう1点だけ、先ほど堀田委員から人口減少についてご意見があったが、私どもの成長戦略の中でも、人口減少が進んでいる中で人口そのものを増やしていくのはなかなか難しいので、関係人口を増やしていく中で成長戦略を描いていこうという取組を進めている。また、人口減少が進んでいく中で、住みやすい地域づくりにはデジタルの力を使い倒すのが重要だと、委員から意見があり、その取組を進めている。そういうことも思いながら、先ほどの報告を聞いていたところ、デジタル関連でいうとスマート農業に取り組む事業者数や、細かいところだがIT教室だとか、町の根っこからのIT化、デジタル化を進めているのが実績として既に出ているところが素晴らしい。今後の町の発展的な取組の種になるというところでは、企業誘致や創業件数、それから地域おこし協力隊の皆さんの連携がとても重要だと思っているが、そこも既に実績を上げていて素晴らしいと思う。県としても町と一緒に連携しながら相互に相乗効果を取れるような形で計画を進めていくのでよろしくお願ひしたい。

議長 関係人口という話があったが、この関係人口の捉え方のシステムはどのようになっているのか？

委員 関係人口というのは、定義的には総務省と国交省とで一応ぼんやりした定義があるが、実は正確な定義は無い。私どもは「幸せ人口1,000万人」、すなわち県民の皆さんと、富山県と関係を持つ方々1,000万人を幸せにしていくことで、共にウェルビーイングを高めていくことを成長戦略の目標に掲げている。そこで、関係人口とは何かを今一度整理したところだが、一番わかりやすく言うと「県外に住んでいて富山に訪問される方で、想いを持って富山県と関係を持っている方」をイメージしていただければと思う。例えば、以前、県外に住んでいる学生達が草刈り十字軍という形で首都圏から富山県へ来て、最初はボランティアで

携わった。ボランティアをしている間に地域の住民の皆さんと凄く親密な関係になって「この町いいな、この方ともっと付き合いたいな」ということで、想いを持って草刈りの時期ではなくてもその地域に訪問されるという関係を持っていった。そうやって最後に行きつくのが移住なのかもしれないが、移住まで行かずとも、想いを持って富山県に関係を持っていただける方。訪問される方もいれば、県外に居てふるさと納税という形で富山県へ寄附して富山県と一緒に発展していこうという想いを遠方から投げかけて、ずっとウォッチしていて、場合によっては意見をもらってという形で富山県と関係を持ってもらえる方。いろんな形の関係人口があると思うが、訪問される方、遠方に居て想いを寄せていただける方、そのような方々を出していきたいということ。今、どのような方々を関係人口と言えるのか、そして、どんな方々をどんな施策を打つことによって富山県に思いを寄せて一緒にウェルビーイングを高めていけるのかということを進めているところである。少々、雑ばくな説明になったが、イメージとしてはこのような感じである。

会議終了の予定時間となったため、議長は意見徴収を終了とし、発言できなかった意見については事務局の企画課へ提出するよう委員へ求めた。議長は活発な審議と円滑な議事進行への協力について委員へ感謝の言葉を述べ、議事を終了し、進行を司会へ戻した。

6 その他、閉会

事務局は、資料4-4により「おおかみこどもの森づくり」プロジェクトに関するクラウドファンディングを説明した。同プロジェクトの趣旨に賛同する委員へ資金確保の支援と周囲の方々への情報拡散の協力を依頼し、来年5月に開催予定の植樹祭に向け、町が協力していく旨を連絡した。また、今年度と同様に各団体から来年度の審議委員を選出してもらえるよう協力を依頼した。

司会者は、以上をもって次第を終了した旨を述べ、閉会を宣言した。